

デーヴォ ガイド



2025.1.6-12

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

L T G Guide

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

Cell Group Guide

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

Family Worship

➤ 6日 月曜

ヨハネ



2:1 それから三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があり、そこにイエスの母がいた。

2:2 イエスも弟子たちも、その婚礼に招かれていた。

2:3 ぶどう酒がなくなると、母はイエスに向かって「ぶどう酒がありません」と言った。

2:4 すると、イエスは母に言われた。「女の方、あなたはわたしと何の関係がありますか。わたしの時はまだ来ていません。」

2:5 母は給仕の者たちに言った。「あの方が言われることは、何でもしてください。」

2:6 そこには、ユダヤ人のきよめのしきたりによって、石の水がめが六つ置いてあった。それぞれ、二あるいは三メートル入りのものであった。

2:7 イエスは給仕の者たちに言われた。「水がめを水でいっぱいにしなさい。」彼らは水がめを縁までいっぱいにした。

2:8 イエスは彼らに言われた。「さあ、それを汲んで、宴会の世話役のところを持って行きなさい。」彼らは持って行った。

2:9 宴会の世話役は、すでにぶどう酒になっていたその水を味見した。汲んだ給仕の者たちはそれがどこから来たのかを知っていたが、世話役は知らなかった。それで、花婿を呼んで、

2:10 こう言った。「みな、初めに良いぶどう酒を出して、酔いが回ったところに悪いのを出すものだが、あなたは良いぶどう酒を今まで取っておきました。」

2:11 イエスはこれを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行い、ご自分の栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。

2:12 その後イエスは、母と弟たち、そして弟子たちとともにカペナウムに下って行き、長い日数ではなかったが、そこに滞在された。

イエス様が一般的な生活をしておられたことがわかります。お母さんのマリアは新郎新婦の親戚であろうと思われます。お手伝いをしていたからです。イエス様が「あなたとわたしと何の関係がありますか。」と言われたのは、冷たい印象を持つかもしれませんが、それは訳の問題であって、イエス様が「女の方」と言われたのは、とても尊敬を表わしたことは使いました。その証拠にマリアはその後もイエス様に期待しています。

しもべたちが「水がめを縁までいっぱいにした」ことに注目しましょう。イエス様に期待して願うときには、それが満たされる必要があるのです。祈っても、すぐに終わらせてしまうのではなく、祈りを満たしましょう。十分に祈りましょう。主の時まで祈りを満たしましょう。そこに信仰が表れます。

イエス様は「しきたり」を喜びのお酒に変えました。まさに律法から恵への転換をイエス様がなしてくださったことの現れです。私たちも、律法的な生き方から、喜びの生き方に変えましょう。それにはイエス様の救いに感謝し、イエス様のみわざに期待することです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7日 火曜

ヨハネ

2:13 さて、ユダヤ人の過越の祭りが近づき、イエスはエルサレムに上られた。

2:14 そして、宮の中で、牛や羊や鳩を売っている者たちと、座って両替をしている者たちを見て、

2:15 細縄でむちを作って、羊も牛もみな宮から追い出し、両替人の金を散らして、その台を倒し、

2:16 鳩を売っている者たちに言われた。「それをここから持って行け。わたしの父の家を商売の家にしてはならない。」

2:17 弟子たちは、「あなたの家を思う熱心が私を食い尽くす」と書いてあるのを思い起こした。

2:18 すると、ユダヤ人たちがイエスに対して言った。「こんなことをするからには、どんなしるしを見せてくれるのか。」

2:19 イエスは彼らに答えられた。「この神殿を壊してみなさい。わたしは、三日でそれをよみがえらせる。」

2:20 そこで、ユダヤ人たちは言った。「この神殿は建てるのに四十六年かかった。あなたはそれを三日でよみがえらせるのか。」

2:21 しかし、イエスはご自分のからだという神殿について語られたのであった。

2:22 それで、イエスが死人の中からよみがえられたとき、弟子たちは、イエスがこのように言われたことを思い起こして、聖書とイエスが言われたことばを信じた。

2:23 過越の祭りの祝いの間、イエスがエルサレムにおられたとき、多くの人々がイエスの行われたしるしを見て、その名を信じた。

2:24 しかし、イエスご自身は、彼らに自分を



お任せにならなかった。すべての人を知っていたので、

2:25 人についてだれの証言も必要とされなかったからである。イエスは、人のうちに何があるかを知っておられたのである。

宮の中には神様への信仰を利用して、金儲けをする人々で溢れていました。商売が悪いのではありません。神の聖なることを利用してはならないのです。礼拝の目的を曲げてはならないのです。教会がそうならないように気をつけなくてはなりません。

イエス様は「三日でよみがえらせる。」と言われましたが、これは十字架の後三日目によみがえったことをあらわしています。このことが後に実際に起こって、多くの人々がイエス様を信じました。イエス様の出来事が単なる偶然ではないことがわかります。

神様を自分の利益に使うのではなく（それは7神殿で商売をしているようなものです）、神様の主権によるご計画を認めて、主に従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 8日 水曜

ヨハネ



3:1 さて、パリサイ人の一人で、ニコデモという名の人があった。ユダヤ人の議員であった。

3:2 この人が、夜、イエスのもとに来て言った。「先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられなければ、あなたがなさっているこのようなしるしは、だれも行うことができません。」

3:3 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」

3:4 ニコデモはイエスに言った。「人は、老いていながら、どうやって生まれることができますか。もう一度、母の胎に入って生まれることなどできるでしょうか。」

3:5 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。」

3:6 肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。

3:7 あなたがたは新しく生まれなければならない、とわたしが言ったことを不思議に思っ
てはなりません。

3:8 風は思いのままに吹きます。その音を聞いても、それがどこから来てどこへ行くのかわかりません。御霊によって生まれた者もみな、それと同じです。」

3:9 ニコデモは答えた。「どうして、そのようなことがあり得るでしょうか。」

も救いについては分りませんでした。「新しく生まれる」ということは、それほどの奥義なのです。

それを知っている私たち、それだけでなく、実際に新しく生まれた私たちは、心から神に感謝すべきです。また、もしもこの新生に実感がないなら、いつでも神様にそれを求める必要があります。遅いことはありません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

ニコデモはイスラエルの学者でしたが、それで



9日 木曜

ヨハネ



3:10 イエスは答えられた。「あなたはイスラエルの教師なのに、そのことが分からないのですか。

3:11 まことに、まことに、あなたに言います。わたしたちは知っていることを話し、見たことを証ししているのに、あなたがたはわたしたちの証しを受け入れません。

3:12 わたしはあなたがたに地上のことを話しましたが、あなたがたは信じません。それなら、天上のことを話して、どうして信じるでしょうか。

3:13 だれも天に上った者はいません。しかし、天から下って来た者、人の子は別です。

3:14 モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければなりません。

3:15 それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」

3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

3:17 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。

3:18 御子を信じる者はさばかれない。信じない者はすでにさばかれている。神のひとり子の名を信じなかったからである。

3:19 そのさばきとは、光が世に来ているのに、自分の行いが悪いために、人々が光よりも闇を愛したことである。

3:20 悪を行う者はみな、光を憎み、その行いが明るみに出されることを恐れて、光の方に来ない。

3:21 しかし、真理を行う者は、その行いが神にあってなされたことが明らかになるように、光の方に来る。

「モーセが荒野で蛇を上げた」というのは、青銅の蛇のことで、病に倒れたイスラエル人がこれを見上げると癒されたという出来事です。これはイエス様の十字架のひな型で、蛇のように呪われたものとなって木にかけられ、それを私たちが信じて仰ぎ見るときに救われるという真理を表わしたものです。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」との聖句はクリスチャンなら誰でも暗唱しておくべきでしょう。私たちの救いの確信を与える聖句です。

私のために呪われたものとなってくださった、イエス様の謙遜と苦しみを覚えて、感謝しましょう。その感謝を表わしましょう。感謝が私たちの力になります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



10日 金曜

ヨハネ

3:22 その後、イエスは弟子たちとユダヤの地に行き、彼らとともにそこに滞在して、バプテスマを授けておられた。

3:23 一方ヨハネも、サリムに近いアイノンでバプテスマを授けていた。そこには水が豊かであったからである。人々はやって来て、バプテスマを受けていた。

3:24 ヨハネは、まだ投獄されていなかった。

3:25 ところで、ヨハネの弟子の何人かが、あるユダヤ人ときよめについて論争をした。

3:26 彼らはヨハネのところに来て言った。

「先生。ヨルダンの川向こうで先生と一緒にいて、先生が証しされたあの方が、なんと、バプテスマを授けておられます。そして、皆があの方のほうに行っています。」

3:27 ヨハネは答えた。「人は、天から与えられるのでなければ、何も受けることができません。」

3:28 『私はキリストではありません。むしろ、その方の前に私は遣わされたのです』と私が言ったことは、あなたがた自身が証ししてくれます。

3:29 花嫁を迎えるのは花婿です。そばに立って花婿が語ることに耳を傾けている友人は、花婿の声を聞いて大いに喜びます。ですから、私もその喜びに満ちあふれています。

3:30 あの方は盛んになり、私は衰えなければなりません。」

3:31 上から来られる方は、すべてのものの上におられる。地から出る者は地に属し、地のことを話す。天から来られる方は、すべてのものの上におられる。

3:32 この方は見たこと、聞いたことを証しさ



れるが、だれもその証しを受け入れない。
3:33 その証しを受け入れた者は、神が真実であると認める印を押したのである。

3:34 神が遣わした方は、神のことはを語られる。神が御霊を限りなくお与えになるからである。

3:35 父は御子を愛しておられ、その手にすべてをお与えになった。

3:36 御子を信じる者は永遠のいのちを持っているが、御子に聞き従わない者はいのちを見ることなく、神の怒りがその上にとどまる。

バプテスマのヨハネに、イエス様への信仰のあるべき姿勢を見ることが出来ます。自分が何かをやったとは、少しも思っていない。「人は、天から与えられるのでなければ、何も受けることはできません。」とは、まさに真実なことであり忘れてはならないことです。

ですから私たちは「与えてくださる」すばらしい「花婿」を喜ぶのです。花婿なるイエス様を愛しているのです、イエス様のためになることが喜びです。イエス様が「盛んになり私は衰えなければなりません。」と、喜びを感じながら言えるでしょうか。それともイエス様のことよりも、自分の喜びが大事でしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



11日 土曜

ヨハネ

4:1 パリサイ人たちは、イエスがヨハネよりも多くの弟子を作ってバプテスマを授けている、と伝え聞いた。それを知るとイエスは、
4:2 —バプテスマを授けていたのはイエスご自身ではなく、弟子たちであったのだが—

4:3 ユダヤを去って、再びガリラヤへ向かわれた。

4:4 しかし、サマリアを通過して行かなければならなかった。

4:5 それでイエスは、ヤコブがその子ヨセフに与えた地所に近い、スカルというサマリアの町に来られた。

4:6 そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅の疲れから、その井戸の傍らに、ただ座っておられた。時はおよそ第六の時であった。

4:7 一人のサマリアの女が、水を汲みに来た。イエスは彼女に、「わたしに水を飲ませてください」と言われた。

4:8 弟子たちは食物を買いに、町へ出かけていた。

4:9 そのサマリアの女は言った。「あなたはユダヤ人なのに、どうしてサマリアの女の私に、飲み水をお求めになるのですか。」ユダヤ人はサマリア人と付き合いをしなかったのである。

4:10 イエスは答えられた。「もしあなたが神の賜物を知り、また、水を飲ませてくださいとあなたに言っているのがだれなのかを知っていたら、あなたのほうからその人に求めていたでしょう。そして、その人はあなたに生ける水を与えたことでしょう。」



4:11 その女は言った。「主よ。あなたは汲む物を持っておられませんし、この井戸は深いのです。その生ける水を、どこから手に入れられるのでしょうか。」

4:12 あなたは、私たちの父ヤコブより偉いのでしょうか。ヤコブは私たちにこの井戸を下させて、彼自身も、その子たちも家畜も、この井戸から飲みました。」

4:13 イエスは答えられた。「この水を飲む人はみな、また渴きます。」

4:14 しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。」

イエス様の身に危険を感じたので、サマリアを通過ことにしました。そこでこの女性に会って伝道の機会が与えられました。このように私たちが救いに導く人々は、計画外の出来事によって出会う人が多いものです。主が導かれるからです。そのような伝道の機会を逃さないようにしましょう。背後に働いておられる主の期待に気づきましょう。

イエス様は初めから福音を語ったのではなく、この女性の興味関心、そしてニーズに応じて、伝道しました。これは彼女を慈しんでおられたからです。またその人の人格を尊重しておられたからです。そのように愛をもって伝道しましょう。

新しい年にその希望を持って、祈り続けましょう。チャンスを求めて祈ることで、チャンスに気づきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 12日 日曜

ヨハネ



4:15 彼女はイエスに言った。「主よ。私が渴くことのないように、ここに汲みに来なくてもよいように、その水を私に下さい。」

4:16 イエスは彼女に言われた。「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい。」

4:17 彼女は答えた。「私には夫がいません。」イエスは言われた。「自分には夫がない、と言ったのは、そのとおりです。」

4:18 あなたには夫が五人いましたが、今一緒にいるのは夫ではないのですから。あなたは本当のことを言いました。」

4:19 彼女は言った。「主よ。あなたは預言者だとお見受けします。」

4:20 私たちの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。」

4:21 イエスは彼女に言われた。「女の人よ、わたしを信じなさい。この山でもなく、エルサレムでもないところで、あなたがたが父を礼拝する時が来ます。」

4:22 救いはユダヤ人から出るのですから、わたしたちは知って礼拝していますが、あなたがたは知らないで礼拝しています。」

4:23 しかし、まことの礼拝者たちが、御霊と真理によって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はそのような人たちを、ご自分を礼拝する者として求めておられるのです。」

4:24 神は霊ですから、神を礼拝する人は、御霊と真理によって礼拝しなければなりません。」

4:25 女はイエスに言った。「私は、キリストと呼ばれるメシアが来られることを知っています。その方が来られるとき、一切のことを

私たちに知らせてくださるでしょう。」

4:26 イエスは言われた。「あなたと話しているこのわたしがそれです。」

この女性が乱れた私生活について話したときも、イエス様は罪を指摘するよりも、「あなたは本当のことを言いました。」と、その言葉を否定しませんでした。それでこの女性は、「あなたは預言者だとお見受けします。」と、イエス様に権威を認めました。もしも、自分が否定されたら、この女性はイエス様のことを否定したでしょう。人はそういうものです。

この女性が話をそらそうとしたときでさえ、イエス様はそれを受け入れて、その上で真理に導きいれました。この女性がメシヤについて興味があると見るや、「私がそれです」とはつきと核心部分の宣言をなさいました。ここに福音の伝え方があります。

最後は福音をはっきりと伝えるべきですが、そこにいたるまでは、相手を思いやり認めて尊重して、相手の存在を尊ぶのです。これこそが神様の伝えたいことであるというのは明白です。なぜならイエス様は神様だからです。

この女性にイエス様が語られたように、私たちもまずは相手を尊重して、語りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

